

生の皆さんへ紹介すること、図書館が卒業生に向けて行っているサービス「校友会員の利用制度」において、卒業生に同窓の方々の著作に親しんでいただくことを目的に、本学図書館が校友会にご協力をお願いして実現したものです。

このデータベースは、図書館のホームページにある「校友会員の利用制度」に組み入れています。校友会のホームページからもリンクによって検索できるようになっています。

★ オーストラリア大使館図書館と相互協力

オーストラリア大使からのメッセージが届く

このほど本学図書館は、所蔵している約3千冊に及ぶオーストラリアの小説の書誌データベース“ Australian Literature Collection Author Index ”を作り、ホームページで公開いたしました。同時に、このことをオーストラリア大使館に紹介したことから、ピーター・グレイ大使のメッセージをいただきデータベースに掲載しています。

また、同大使館内には豪日交流基金オーストラリア図書館があり、この図書館と本学図書館が相互交流を行うことになりました。オーストラリア図書館は蔵書数約1万冊からなっており、同国に関する日本国内の論文をはじめとする文献の入手や、オーストラリアからの資料の取り寄せができる専門的な図書館です。この交流は、お互いに資料面で補完し合うことを目的としたものですので、双方にとって効果があるものと考えています。

● テレビ番組で本学図書館の資料が使われる

本学図書館は、このほど二つのテレビ局からの要請に基づき、それぞれの番組への所蔵資料の提供を行いました。提供された資料は16世紀に我が国で、キリスト教の布教に携わった宣教師ルイス・フロイスが書いた『日本史』などイエズス会関係のもので、8月5日に放映された日本テレビの「知ってるつもり」と、9月19日放映のNHK「その時歴史が動いた」で使われました。

司書雑感

故郷は遠きにありて思うもの

本学図書館ホームページのトップ画面が変わりました。発信形態が若干変わった中で、画面の右側で点滅を繰り返している色とりどりの「スペシャル・コンテンツ」は、これまで通り特徴的なデータベースを中心に紹介していますが、今回新しいタイトルが一つ加わりました。

それは「ふるさと情報」と呼ばれるリンク集で、総務省の都道府県市町村ホームページのリンク集である「NIPPON-Net」に繋がっています。また、民間の原俊雄氏が作っておられるリンク集「新聞の街角」にも接続させていただき、本学図書館から全国の自治体で発信している情報と地方新聞の最新記事が簡単に見られるようになりました。

学生の皆さんは、全国各地から京都に来て生活している方が多いと思います。「故郷は遠きにありて思うもの」とはよくいった言葉で、家族と離れて暮らしていると、自分の町や村の様子が美しく思い浮かびます。そんな時に、このリンク集を使ってください。故郷の特徴や出身高校がクラブ活動の地元予選で活躍する様子などもよくわかります。

とりわけ、この京都の地で外国語を学んでいる皆さんが、自分の故郷をよく知っていることは大事なことで、外国の人々とその誇りを語り合えてこそ、心が通い合えるのではないのでしょうか。言い換えれば、あなたの力によって、あなたの故郷は世界に発信されるのです。私たちは、そのようなことも願って本学図書館のホームページ「京都から世界へ」の中にこのリンク集を作りました。

でも、あまり見過ぎてホームシック(?)にならないことも併せてお祈りします。

(奥 正敬)